

学校教育目標：旭を愛し、やさしく・かしこく・たくましく生きる児童の育成
～ みんなにとって、居心地のよい学校、笑顔あふれる学校、自慢したくなる学校にしよう！～

学校だより



あさひっ子



《祝 R7 開校150周年》

鳥栖市立旭小学校

TEL 0942-83-2806

令和6年7月9日

文責 校長 木村 嘉身

宿泊学習【5年】

5年生は、5月23日(木)・24日(金)、国立夜須高原青少年自然の家において、1泊2日の宿泊学習を行いました。

1日目は、自然の家の集いの広場で、入所式、学級ごとの写真撮影を行った後、フィールドビンゴに挑戦しました。友達と協力し、地図を手掛かりに各チェックポイントにある問題を解きながらゴールを目指す活動です。各グループ、友達同士で確認したり、相談したりしながらの活動になるため、友達との絆をさらに深めることができました。



朝のつどい

※ HPでは、カラーでご覧いただけます。

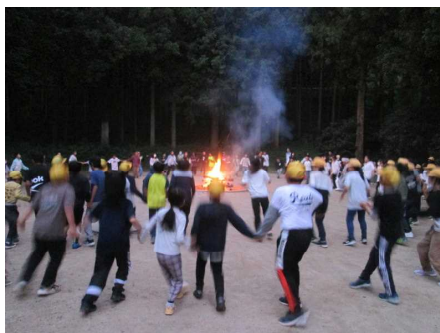


フィールドビンゴ

夕べの集いや夕食(バイキング形式)を済ませた後、いよいよ楽しみにしていたキャンプファイヤーです。「遠き山に日は落ちて」の曲が流れる中、火の長(おさ)と3人の火の使いが入場しました。火の長(校長)の話の後、火の使いは火の長から「友情の火」、「団結の火」、「喜びの火」を受け取り、それぞれ、誓いの言葉を力強く言うことができました。その後、それらの火をキャンプファイヤーのやぐらに点火して第1部が終了です。

第2部は、親睦の集い。勢いよく燃える火を囲んで、各学級が練習した出し物を披露し合いました。ダンスや劇など、それぞれの学級が工夫を凝らした出し物をみんなで見ました。

出し物がすべて終了した後は、みんなが火を囲みながら輪になって手をつなぎ、「マ イム マ イム」を楽しく踊りました。友達と一緒に笑顔で楽しんでいる子どもたちの様子を見て、私自身が幸せな気持ちになりました。



キャンプファイヤー

第3部は、少しずつ消えゆく炎を眺めながら、3つの誓いをみんなで確認した後、火の長の話聞き、みんなが「今日の日はさようなら」を歌い、静かに終わりました。

翌日は、朝の集いや朝食、部屋掃除を終え、野外炊飯(昼食)を行いました。1グループ6～7人、18のグループに分かれ、役割を分担(まき・かまど係、食器係、食材係)し、友達と協力しながら焼きそばを作りました。どのグループも、自分達で力を合わせて作った焼きそばが一番美味しかったはずですよ！近くのグループの焼きそばを少しもらって味比べをしている子どもたちもいました。

宿泊学習中、5年生の子どもたちは、自然の家の職員や他校の先生に元気に挨拶ができ、職員や先生方に褒められていました。さすが、あさひっ子です！

5年生の保護者の皆様にとっては、離れた場所でのお子様の活動の様子が気になられると思いましたが、宿泊学習便り(約10回)として、マチコミメール(写真添付)を活用して随時お伝えさせていただきま



野外炊飯の様子

車いす体験【4年】

6月5日(水)・6日(木)の2日間、鳥栖市社会福祉協議会、鳥栖西地区地域包括支援センター、しょうがい生活支援の会すみかの皆様のご協力により、4年生の子どもたちを対象に車いす体験を行いました。

まずは、「すみか」の芹田洋志さんに、スライドを活用しながら、介助者の視線やバリアフリーとユニバーサルデザインの違いなどについて話していただきました。さらに、バリアフリーには、「ハード」面(設備)と「ソフト」面(情報や制度)、「ハート」面(心理的なもの：差別をしない、思いやり等)の3つがあり、子どもたちにできることとしては、「ハート」面であることを伝えていただきました。その後、子どもたちの質問に、分かりやすく丁寧に答えていただきました。その後の交流の時間もとても良かったです。

車いす体験では、車いすに乗った状態で、自動販売機の利用体験やトイレの利用の仕方、段差がある場所での介助の方法など、全員体験させていただきました。子どもたちは、体験を通して、車いすを利用する人の気持ちや介助をする人の気持ちを、少しではありますが理解できたのではないかと思います。

昨年度、この車いす体験をした当時4年生の子どもたちが、旭まちづくり推進センター付近で車いすに乗ろうとしていた人に気付いて駆け寄り、「お手伝いすることはありませんか」と声を掛けたという話を新聞で目にしました。子どもたちが、車いすを押したり、じゃまになる荷物を素早く片付けたりしたこと、その方は幸せな気持ちをかみしめることができたそうです。

(佐賀新聞のコラム欄より一部紹介)



芹田さんによる講話



段差箇所での介助体験

自動販売機利用の体験